

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	99人	国語B	99人
② 算数A	99人	算数B	99人
③ 理科	99人		

5 留意事項

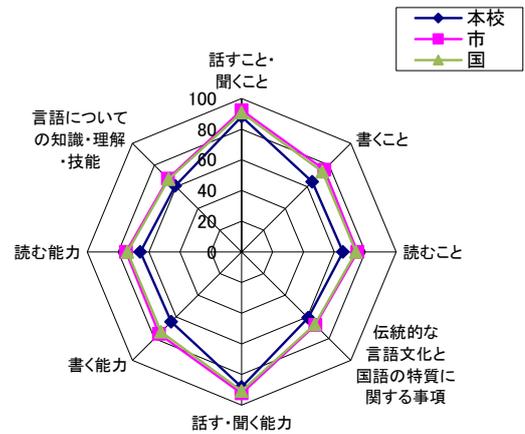
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

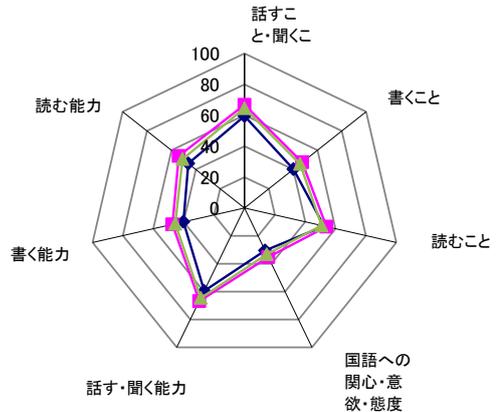
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	88.2	92.4	90.8
	書くこと	64.5	75.7	73.8
	読むこと	65.6	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.8	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	88.2	92.4	90.8
	書く能力	64.5	75.7	73.8
	読む能力	65.6	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	60.8	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	59.5	66.8	64.6
	書くこと	40.2	47.4	45.6
	読むこと	52.4	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	30.5	35.2	33.2
	話す・聞く能力	59.5	66.8	64.6
	書く能力	40.2	47.4	45.6
	読む能力	46.2	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

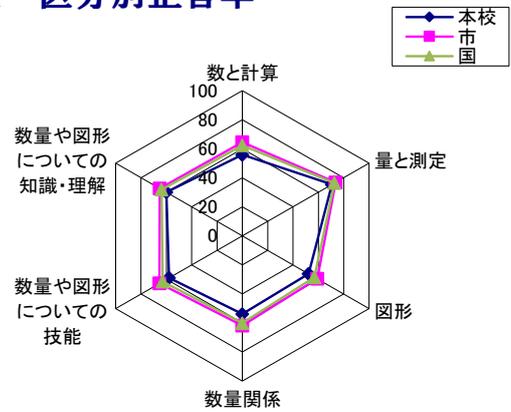
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語ABともすべての問題で国の平均を下回った。特に、「話し合いの参加者として、質問の意図を捉える」問題では、国の平均を6.2ポイント下回った。	・授業や日常での発言や発表、話し合い活動などを意図的に取り入れ、言葉遣いへの配慮等についても指導しながら、話す技能を伸ばせるように指導していく。 ・ノートを取りながら、作業をしながら話を聞くのではなく、聞くことに集中できるように働きかけるとともに、疑問点を質問できる雰囲気づくりと機会を設けていく。
書くこと	●国語Aの「自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える」問題では、64.5%で、国の平均73.8%を大きく下回った。 ●国語Bの「目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考える」問題では、国の平均を13.5ポイント下回った。	・まず、文章を書くことによって理解が深まったり、人を説得するために役立つたりする有効性や必要性を説く。その上で、構成を考えて書き、発表する活動を意図的に取り入れる。
読むこと	○国語Bで「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを的確にしながらか読む」問題では、国の平均を2.5ポイント上回った。 ●国語Aの「登場人物の心情について、情景描写をもとに捉える」問題では、国の平均を12ポイント下回り、正答率が低い。	・いつでも、どんな教科の学習でも、自分の考えを持つことが大切であると説く。また、朝学の時間に、ドリルを使って短い文章の読み取りの学習を取り入れる。 ・音読の指導を重視し、繰り返し文章を読む授業づくりに努める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語Aの漢字を書く問題が5問あったが、いずれも無回答率が高かった。 ●国語Aで主語と述語との関係の正誤を問う問題があったが、国の平均を18ポイント下回っている。	・今後も漢字小テストを継続的に行い、力を定着させていく。教科書に載っている熟語だけでなく、漢字ドリルや漢字辞典を活用して、一般的な熟語にも範囲を広げ、漢字を応用する力を伸ばすようにする。 ・作文などで文を書くときには、自分で読み直して主語と述語の一致を確認するように声をかけ、繰り返し指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

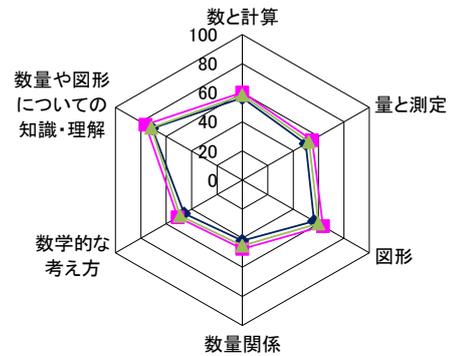
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	55.9	64.5	62.3
	量と測定	70.7	73.6	72.7
	図形	52.3	59.1	56.9
	数量関係	53.8	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	57.8	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	60.0	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	56.5	60.2	58.4
	量と測定	50.0	55.0	52.4
	図形	56.5	63.5	59.9
	数量関係	41.7	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	46.0	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	71.0	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

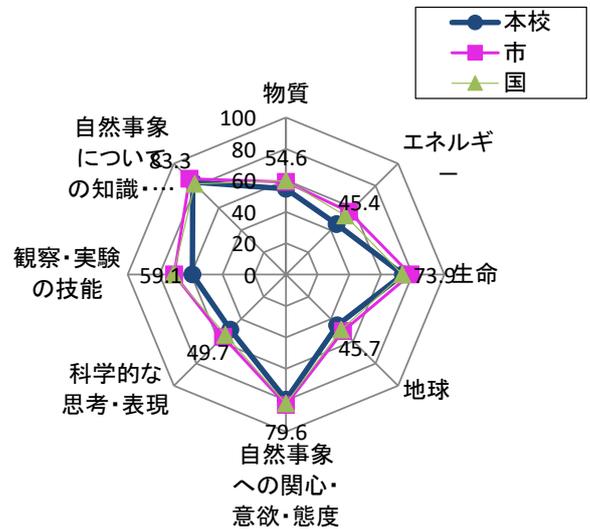
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○算数Aの「除法で表すことができる二つの数量関係」の問題の正答率が66.7%で、県の61.2%、国の62.9%を上回った。</p> <p>○算数Bの「数の規則性を解く」問題は正答率が67.7%で市や国よりやや高かった。</p> <p>●算数Aの「単位量あたりの計算」問題では、正答率が市や国より約10ポイント以上低く無解答率も6.5%と高かった。</p>	<p>・本校で実施している、毎週金曜日の朝の学習「算数チャレンジ」の時間を活用し、苦手な分野を繰り返し復習させていく。また、ドリルを活用したり、プリント等の補助教材を活用したりして、授業の中でも問題場면을イメージしながらの問題解決の時間を確保していく。</p>
量と測定	<p>○算数Aの「面積がそろっている混み具合を求める」問題では、県の正答率より6ポイント上回った。</p> <p>○算数Bの「示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める」問題では、県と全国の正答率の5ポイント上回った。</p> <p>●算数Aの「分度器で180°よりも大きい角を求める」問題では、県の平均よりも10パーセント下回った。</p>	<p>・もう一度、分度器を使って角度をかく練習をするなど図形を描く学習を復習していく。</p>
図形	<p>○算数Aの「空間の中にあるものの位置を表す問題」では県とほぼ同様の正答率である。</p> <p>●算数Aの「直径の長さと言周の長さの関係について」の問題では10ポイント以上下回った。</p>	<p>・円周の公式の確認や直径と半径の関連性について再確認する。</p>
数量関係	<p>●算数Aの「折れ線グラフから変化の特徴を読み取る」問題では、県の正答率を4ポイント下回った。</p> <p>●算数Bの「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる」問題では、県と全国を8ポイント下回った。</p>	<p>・この分野も、単元と単元の間どきに、思考力を要する教科書巻末の問題などを取り上げて児童に挑戦させる。</p> <p>・間違いを指摘する問題だけでなく、より積極的に活用を図れる問題場面を取り上げ、問題解決に当たらせる。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	54.6	59.0	59.8
	エネルギー	45.4	56.4	53.1
	生命	73.9	78.6	73.6
	地球	45.7	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	79.6	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	49.7	56.1	54.1
	観察・実験の技能	59.1	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	83.3	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<p>○海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ問題については、全国の平均を0.9ポイント上回った。</p> <p>●ろ過の適切な操作方法を選択する問題では、全国の平均を12ポイント下回った。</p> <p>●食塩水を熱したときの、食塩の蒸発についての実験結果を記述する問題では、全国の平均を9ポイント下回った。</p>	<p>・実験の操作手順や、操作方法などについて捉えるためには操作の意味を理解させることが大切である。実験を行う際に、手順や方法を一つ一つ丁寧に確認しながらすすめるなどポイントをおさえて指導していく。</p> <p>・実験結果や考察については、自分の言葉で発表させる場を設けることで記述する力を身につけさせる。</p>
エネルギー	<p>●風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ問題では、全国の平均を13ポイント下回った。</p> <p>●回路を流れる電流の流れ方について、検流計の針の向きとメモリを選ぶ問題では、全国の平均を11.1ポイント下回った。</p>	<p>・回路を流れる電流の流れ方については、電流の流れを逆にする方法やより電流を強くする方法などについて、一つ一つ丁寧に説明しながら実験させる。</p> <p>・回路図を繰り返し描かせることで、きちんと理解できるようにする。</p>
生命	<p>○骨と骨のつなぎ目について答える問題では、全国の平均を3.4ポイント上回った。</p> <p>●野鳥のヒナの様子を観察するための適切な方法を選ぶ問題では、全国の平均を2.5ポイント下回った。</p>	<p>・野鳥を観察することができる施設で体験活動をさせたり、映像資料を見せたりすることで、人間以外の生命に興味を持たせる。</p> <p>・学習を通して得た知識を、実際の自然や日常生活に当てはめて考えられるように助言する。</p>
地球	<p>○流されてきた土や石を積もらせる水の働きについて答える問題では、県と全国の平均を上回った。</p> <p>●上流側の天気と下流側の水位の関係について答える問題では、全国の平均を6ポイント下回った。</p>	<p>・身近なニュースなどで自然現象について興味を持たせ考えさせたり、実際に観察する体験を多く取り入れたりしながら、意欲的に学習に取り組めるようにする。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 人の役に立つ人間になりたいと思うで「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答している児童が97.9%でありほとんどの児童にその意欲が見られている。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだに「当てはまる」と回答した児童は89.6%いる。
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つかについては84.4%の児童が「当てはまる」と回答している。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができるかに「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」が73.0%であり、そのよさを経験から学習している児童が7割以上いる。
- 自分にはよいところがあると思うに「当てはまる」と回答した児童は27.1%であり、県44.7%、全国41.2%であり、自己肯定感が低い児童が多い。
- 将来の夢や目標を持っているかで「当てはまる」と回答した児童は53.1%であり、県68.2%、全国68.2%に比べ低い。
- 学校の授業時間以外に普段(月～金)1日あたりどれくらいの時間、読書をするかで「30分以上1時間より少ない」と回答した児童は9.4%、県23.6%、全国21.8%であり、県や全国に比べ低い。
- 観察や実験を行うことは好きか「当てはまる」と回答した児童は50.0%であり、県71.3%、全国68.8%と比べ下回っている。

指導上の工夫

- ・全教育活動を通し、一人ひとりの「興味関心」や「よさ」「持ち味」を生かし認め励ますかかわりを通し、児童の実感を伴う小さな成功体験を積み自己有能感や自己肯定感を醸成する。
- ・日常的な児童とのやりとりにおいて「○○さんのいいところは～」「将来、○○のお仕事に向いているね」など児童自身が自己理解できるよう促したり、将来の夢を語り合ったりする視点に配慮したかかわりに努める。また、人の役に立つ経験を味わえる内容や場の設定などを工夫し教育活動に仕組んでいく。
- ・算数では、日常生活と具体的に連動させる学習を意識し、学習内容を生活に生かしたりよさの意味づけをすることで、役に立つ楽しい算数を実感させる。
- ・引き続き、学級において多様な考えや価値を認め合える話し合い活動を通し、自分の考えを深めたり広げたりすることのよさを児童が十分味わうことができる教育活動を継続する。
- ・平日に読書をしない児童が多いことから、読書することのよさを学習時に取り上げたり、便り等で保護者へ啓発する。
- ・観察や実験などの具体的な体験を通し、新たな発見を楽しく共有できる授業を展開しながら、実感の伴う学習に取り組ませる。

宇都宮市立御幸が原小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びを追究する授業づくりの推進 ○個に応じた指導の工夫と学習内容の定着を図る指導の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の意見に対して温かい反応を示し、自分と友達の考えをつなぎ、ねらいにせまるために授業の質を高めていく指導過程の工夫 ○他の考えを的確にとらえ、比較したり、関連付けたりしながら自分の考えをもち、根拠を挙げて自分の考えを表現する能力・態度の育成 ○言語活動の充実を目指した授業を工夫し、校内研修の充実と、一人一授業公開の実践と授業反省会による指導法の共有化 ○各授業における「めあて」「まとめ」「振り返り」の提示・活動、板書・ノート指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや意見を発表することに苦手意識をもつ児童が多い。自分と異なる友達の意見への気付きが希薄である。その点から、自分の考えを持つことが苦手となっているようである。 ○問題を読み取る力や友達の意見をとらえる力が弱い。 ○自分の考えをもとにした、まとまった文章の作成に慣れていない。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えの表現が難しい。 ○問題を読み取る力、友達の意見をとらえる力が弱い。 ○まとまった文章の作成に慣れていない。 ○思考力を伴う問題を苦手としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業形態の改善と発言の奨励・称賛 ○話し合い活動のさらなる推進 ○読書活動の推奨や文章の読解練習 ○文章を書く活動の推進 ○家庭での「復習」の奨励・啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の学習において、日常生活レベルで、自分の考えを持つことが大切であると説き、発言や表現作品への称賛と励ましを意図的に繰り返すとともに、学級全体や子供たち同士が互いの表現を認め合える雰囲気づくりに努める。 ○計算練習の繰り返し練習や、家庭での自主学習で弱点を克服できるように助言する。 ○音読の指導を重視するとともに、読書指導も一層推奨し、繰り返して文章を読む機会を増やすように努める。 ○一人ひとりの家庭学習の成果に対して称賛を繰り返し、家庭学習の継続を啓発をする。優れた内容のノートを掲示し、よさを広め、相互に学び合えるようにする。 ○思考力を伴う問題について、単元レベルで意図的に話し合い活動を設定して、対話的なやりとりの中から考えることの大切さや問題を解決しようとする能力を養うように努める。